



ひだまり Vol.1

発行者：田中 宏

爽やかな秋晴れの季節になって参りました。皆様におかれましてはご清祥のことと存じ上げます。さて、昨年 10 月 1 日に 4 階病棟を改装して 14 床の緩和ケア病棟を開設し、早いもので 1 年が経過いたしました。十分な準備をしてきたつもりではありましたが、運営してみて初めて気付いたこともたくさんあり、その都度議論して改善を重ねてゆくという毎日でした。あっという間の 1 年でしたが、皆様からの暖かいご支援ご協力のおかげで、何とか軌道に乗せることができましたことを心より感謝申し上げます。

この度、緩和ケア病棟 1 周年を記念し、広報誌「ひだまり」を発行することといたしました。本号では、1 年間の取り組みや成績をご報告させていただきます。これらのデータを振り返りながら、今後の病棟運営に活かしてまいりたいと存じます。皆様におかれましても、是非ご一読いただき、ご意見ご批評をいただけましたら幸甚に存じます。

(院長・緩和ケア病棟担当 田中 宏)

1、緩和ケア外来

緩和ケア外来を水曜日午後に開設した。田中院長と江口看護師（緩和ケア認定）で担当し、初診患者用に 1 時間枠を 3 つ、再診用に 20 分枠を 3 つ設けた。1 年間の月別延べ患者数の推移を表 1 に示したが、緩和ケア外来でフォローする再診患者が増加傾向にあり、初診患者枠が制限されつつある。そこで、比較的安定しておられる患者さんは火曜日の一般外科（田中）枠へ移動いただくようにするとともに、2014 年 10 月より月曜午後に初診枠（藪さこ部長）を新設することとした。

表 1：緩和ケア外来：月別延べ患者数の推移

年 月	2013 年			2014 年								
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
初診	2	2	10	6	3	1	6	10	12	12	9	7
再診	0	0	2	5	4	9	9	5	7	17	10	11
合計	2	2	12	11	7	10	15	15	19	29	19	18

2、入棟判定会議

毎週水曜午後の外来終了後に入棟判定会議を開催した。会議メンバーは、院長、病棟師長、主任、担当 MSW で、入棟基準に沿った新入院患者さんの決定とともに、外来フォロー中や紹介元病院で待機中の患者さんの病状などについて確認し合っている。

3、緩和ケア病棟の診療体制

田中（院長）が専任医として勤務し土日祝を除く毎日総回診を行ない、土曜日には薮さこ（内科主任部長）が総回診を行っている。また隔週金曜日には精神科医（非常勤）によるリエゾン診察を行っている。主治医としての受け持ちは、院内からの転棟患者の場合は元の主治医と田中もしくは薮さこの 2 人体制とし、他院から緩和ケア外来への紹介患者は田中もしくは薮さこが単独で担当している。

看護師は柏原師長（4 北病棟兼任）、江口主任（緩和ケア認定看護師）を含め合計 15 名のスタッフが在籍し（2014 年 10 月 20 日現在）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療相談員（MSW）などの多職種スタッフも専任もしくは他病棟との兼任で勤務している。入院患者さんのほぼ全員にリハビリを導入し、個々の患者さんの病態や嗜好に合わせた食事（緩和ケア食）の提供も行っている。多職種によるカンファレンスを毎日実施し、様々な立場から患者さんやご家族を支援するように努めている。

4、緩和ケア病棟入院患者（2013.10.～2014.9.）の内訳

1) 新入院患者数（再入院患者 11 名を含む）

2013 年			2014 年									合計
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
8	6	4	5	7	7	12	11	13	12	8	12	105

2) 年齢

28～95（平均 71）才

3) 性別

男 62 人、女 43 人

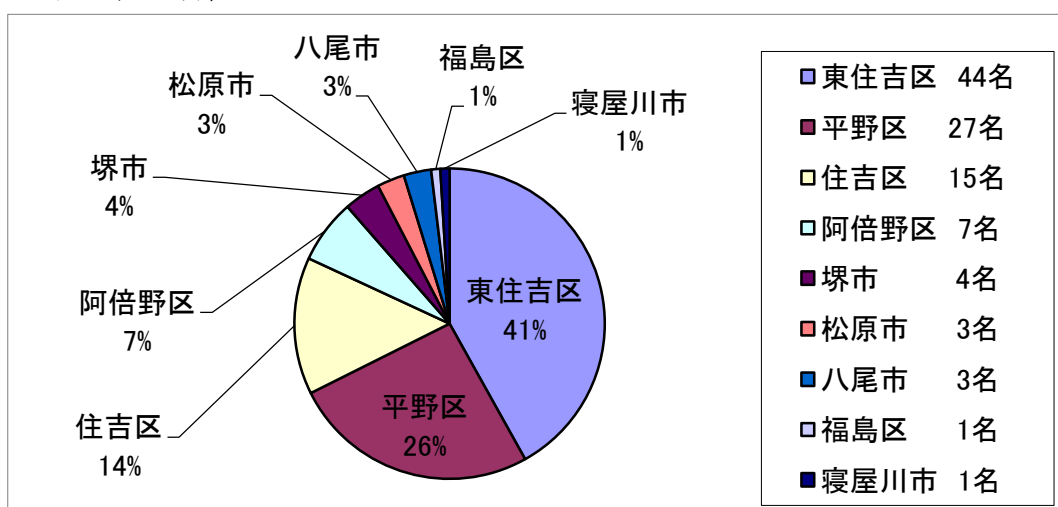
4) 原疾患

肺癌 26 人、大腸癌 21 人、胆膵癌 21 人、胃癌 14 人、肝癌 5 人、乳癌 4 人、婦人科領域癌 4 人、泌尿器科領域癌 4 人、食道癌 3 人、その他の癌 3 人。

5) 紹介元

当院 47 人、大阪市大病院 21 人、府立成人病センター15 人、近畿中央病院 5 人、府立急性期総合医療センター4 人、その他の病院 9 人、かかりつけ（在宅緩和）医 4 人。

6) 患者の居住地



7) 緩和ケア病棟への入院経路と待機期間

入院中の患者	
院内からの転棟	41 人
他院からの転院	18 人
外来通院中（在宅）の患者	
予定入院	17 人
緊急入院	29 人
（内 12 人は一般病棟経由）	

他院からの FAX 等を受領してから緩和ケア外来受診までの期間は 0～35（平均 8）日で、入院適応の最終確認から実際の入院までの期間は、院内からの転棟の場合 0～30（平均 6）日、他院からの転院の場合 0～34（平均 8）日であった。

外来通院（在宅診療）中の患者さんで緊急入院が必要となられた 29 人は全員受け入れることができたが、12 人（41%）は緩和ケア病棟満床等の理由から一旦一般病棟で受け入れてからの転棟となった。一方、予定入院が可能であった 17 名の待機期間は 2～8（平均 4 日）であった。

8) 緩和ケア病棟入院患者の転帰と在院日数

(2014年9月末までに入院され10月20日までに退院された100名)

転帰	患者数	在院日数
看取り	74人	1～215 (平均31) 日
自宅退院	20人	4～62 (平均25) 日
転院・転棟	6名	6～36 (平均24) 日

6、緩和ケア病棟での季節行事

緩和ケア病棟入院中の患者さんご家族を対象に、精神・心理的、スピリチュアル的問題へのアプローチのひとつとして、以下のような四季折々のイベントを、緩和ケア病棟内談話室もしくは病院6階講堂にて開催した。

開催日	行事名	内容
2013年 12月8日	焼き芋会	焼き芋づくり、抹茶振る舞い、フリーゲルホルン演奏など
2014年 4月20日	お花見会	押し花作り、ピアノ演奏など
7月1日	七夕会	夜店遊び、短冊飾り、バイオリン二重奏など
10月16日	秋の音楽会	津軽三味線、太鼓などによる民謡など

7、がん患者サロン

がん患者さんやそのご家族など、同じ立場の人が気軽に悩みや体験を語り合っていただく交流の場として「がん患者サロン」を開催している(第2、4金曜、午後1～3時、病棟内談話室)。参加者はまだまだ少ない現状であるが、「話を聴いてもらってすっきりした」「同じ病気の人ともっと交流をもちたい」などの感想をいただいている。今後は、地域の方々にもっと知っていただき活用していただけるよう、薬剤師や管理栄養士からのミニレクチャーなどの企画も予定している。

8、当院主催・共催の講演会など（緩和ケア・がん対策関連：2013.10.～）

開催日	名称	対象	内容
13. 10. 3	第2回大阪市南部地区緩和ケアカンファレンス	医療者	・症例報告 ・急性期病院における緩和ケア病棟の役割、等
13. 11. 30	第6回東住吉がん診療連携懇話会	医療者	・緩和ケア病棟開設から2ヶ月の歩み ・症例報告、特別講演、等
14. 4. 17	医科歯科連携勉強会	医療者	・がん治療と口腔管理
14. 8. 21	第3回大阪市南部地区緩和ケアカンファレンス	医療者	・チーム医療～緩和ケアにおけるMSWの役割～ ・一人暮らしの在宅緩和ケア ・緩和ケアにおけるリハビリテーション
14. 9. 12	知って得するよもやま塾	一般市民	・もしもあなたやご家族が「がん」といわれたら
14. 10. 11	第7回東住吉がん診療連携懇話会	医療者	・がん登録からみた大阪南部のがん診療の現状 ・緩和ケア病棟における疼痛管理、など
14. 10. 30	知って得するよもやま塾	一般市民	・東住吉区のがんの特徴：予防と検診の勧め

9、研究発表・院外講演など（2013.10.～ 緩和ケア病棟関連）

発表日	学会・講演会名	都市・会場	発表者	演題名
13. 11. 7	東住吉区高齢者健康教室	区老人福祉センター	田中 宏	もしもあなたやご家族が「がん」といわれたら
13. 11. 30	第6回東住吉がん診療連携懇話会	スイスホテル南海	江口由紀	緩和ケア病棟開設から2か月の歩みと展望
14. 2. 6	第1回東住吉緩和ケア連携カンファレンス	東住吉区医会館	田中 宏	緩和ケア病棟開設から4か月の現状
14. 2. 6	第1回東住吉緩和ケア連携カンファレンス	東住吉区医会館	江口由紀	在宅緩和ケア移行のための課題～患者と家族、病棟スタッフの立場から考察する～
14. 2. 6	第1回東住吉緩和ケア連携カンファレンス	東住吉区医会館	丹後ゆかり	在宅緩和ケアの実際～最期までその人らしく～
14. 2. 20	橋本緩和ケア勉強会	橋本市民病院	田中 宏	緩和ケア病棟～開設から5か月の現状と課題～
14. 3. 8	第33回食事療法学会	長崎	下良みのり	当院緩和ケア病棟における食事サービスについて～「ひだまり食」の導入～

発表日	学会・講演会名	都市・会場	発表者	演題名
14. 6. 21	第 19 回日本緩和医療学会学術大会	神戸	江口由紀	急性期病院における緩和ケア病棟開設の影響
14. 6. 21	第 19 回日本緩和医療学会学術大会	神戸	江口由紀	在宅緩和ケア移行のための課題～患者と家族、病棟スタッフの立場から考察する～
14. 6. 21	第 19 回日本緩和医療学会学術大会	神戸	下良みのり	当院緩和ケア病棟における「緩和ケアとしての食事」のあり方と管理栄養士の関わり
14. 7. 3	第 64 回日本病院学会	高松	江口由紀	急性期病院における緩和ケア病棟開設から 5 か月の現状と今後の課題
14. 9. 11	平野区医師会学術講演会	平野区医師会館	田中 宏	急性期病院における緩和ケア病棟～開設から 1 年の歩みと展望～
14. 9. 13.	第 41 回病診連携による生涯教育研修会	天王寺都ホテル	田中 宏	急性期病院における緩和ケア病棟～開設から 1 年の歩みと展望～
14. 10. 3	第 8 回日本緩和医療薬学会年会	松山	近藤慎哉	緩和ケアチーム内における薬剤師の積極的介入の必要性
14. 10. 11	第 7 回東住吉がん診療連携懇話会	天王寺都ホテル	江口由紀	緩和ケア病棟における疼痛コントロールの現状と課題

10、おわりに

1 年間の経過を集計してみました。まだまだ駆け出しの病棟ですが、地域の皆様のご期待に答えられるように努力して参りますので今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

緩和ケア病棟に関するお問い合わせは地域医療連携センターまでお願ひ致します。

東住吉森本病院地域医療連携センター

電話 : 0120-65-0343 FAX : 0120-10-5260

緩和ケア外来 (初診)

月曜午後 藪さこ 恒夫

水曜午後 田中 宏